

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka

2018.9
No.241



特集

パラスポーツ

～明日を目指す若手アスリートたち～

- 05 福障協だより 「政策委員会発足 夢と希望への挑戦!!」
- 07 身障協会だより 「第35回福岡市身体障害者福祉大会」報告
- 09 9月・10月の福祉用具情報 ～福岡市介護実習普及センターより～
- 09 平成30年度在宅重度障がい者地域活動レクリエーション参加者募集のご案内

特集

パラスポーツ～明日を目指す若手アスリートたち～

福岡市には障がいのある多くの方々が、様々なスポーツを通して、健康や体力の維持・増進や交流など老若男女問わず幅広い年齢層にわたり楽しんでいます。さらには、2020年の東京パラリンピック出場を目指し、可能性への挑戦に向け日々練習に汗を流すアスリートもいます。そこで、今回の特集ではパラスポーツに全力で取り組む3名の若手アスリートからスポーツの魅力やこれからの目標などを語っていただきました。

車いす バドミントン



梶原 大暉(かじわら だいき)さん
車いすバドミントンクラブ シャトルワン所属

車いすバドミントンとの出会いと魅力 について教えてください。

小学校3年から中学校3年までは野球チームに所属していました。中学2年の夏に自宅から練習場所へ向かっている途中に交通事故に遭い、それが原因で車いすを利用するようになりました。

それから車いすでの生活がはじまり、何か自分でできるスポーツがないか考えていた時に、色々なスポーツを紹介していただきました。そのなかでも車いすバドミントンは、野球をしていた頃にピッチャーというポジションだったこともあり、これはピッチングのフォームが活かせることができると思い、この競技へ挑戦することにしました。また、2020年東京パラリンピック

から正式種目になることでこれから活発になることを聞き、さらに挑戦する気持ちとパラリンピック出場への想いが強くなり、現在の車いすバドミントンを始めることになりました。

この競技はバドミントンならではの心理的な駆け引きはもちろん、何よりも車いすとは思えない素早い動きが魅力です。障がい状況に応じてクラスが分かれており、車いすの部門ではWH1、WH2の2種類に分かれます。コートは通常のコートの半分、サーブスラインより前はアウトになります。その限られたコートのおかげで、前後の動きなどがとても難しいです。

普段はどのような学生生活を過ごしていますか？

公立高校に通う高校2年生です。学校では授業が終わった後に生徒会活動をしています。バドミントンの練習は、平日は学校から帰宅した後に、週2回と土曜・日曜の午後から練習を行っています。

これからの目標を教えてください。

まだまだ実力が足りない部分を練習し、さらにバドミントンの技術を高められるよう練習に取り組んでいきます。まずは今年12月に開催される日本選手権で、シングルス・ダブルスのどちらも優勝すること。そして、2020年東京パラリンピックに出場しメダルを獲得することが目標です。

バレーボールとの出会いと魅力について教えて下さい。

僕が小学校5年生の頃、ビデオで叔父が福岡市障がい者スポーツセンターでバレーボールをする映像を見たのがきっかけです。バレーボールを始めるまでは学校に行くこと、外出すること、人に会う事に否定的で、自宅に引きこもる生活でした。しかし、この競技と出会ったことで、「運動したい!!」という気持ちが沸いてきて、小学6年生から本格的に始めました。最初は初心者の僕にバレーができるのか不安もありましたが、叔父やチームコーチ、スポーツセンターの指導員の方などから教えていただきながら、徐々にバレーの魅力に引きこまれ今年で6年目になります。

現在、2つのバレーチームに所属しているのですが、知的障がい者バレーは6人制で通常のバレーボールを使用しており、精神障がい者ソフトバレーではボールの素材や大きさが異なり、トスやアタックを打った際にボールが変化しやすいためコントロールが難しい競技でもあります。同じバレーでも異なるボールによってプレイが左右されるため、チームメイトとの意思疎通をしながら、いかに自分の思い通りにコントロールできるかがバレーの魅力のひとつです。

普段はどのような学生生活を過ごしていますか？

現在、博多区の高等学校に通っています。好きな授業は体育と美術です。特に子供の頃から絵を描くことが好きで、今回もこの撮影にむけて一週間かけてフラッグを作成しました（写真左）。バレーをはじめてからは友達も増え、休日はチャンネルシティ博多やポウリングなど楽しく過ごしています。毎日の練習は、学校が終わって夕方6時から夜9時まで障がい者スポーツセンターで、火曜から土曜まで練習とトレーニングを交互に行っています。

これからの目標を教えてください。

昨年、全国障害者スポーツ大会の九州予選では3位だったので、優勝を目指して日々の練習に励みます。そして、卒業後は絵を描く職業に携わりたいという夢にむかって最後まであきらめずに挑戦していきたいです。



大神 優斗(おおがみ ゆうと)さん
ぱりっと福岡(知的障がい者バレー)所属
博多がめ煮っ子クラブ(精神障がい者ソフトバレー)所属





ボッチャとの出会いと魅力について教えてください。

ボッチャを始めて4年になります。ボッチャとの出会いは、中学校3年生の夏でした。当時、僕は特別支援学校の中等部で生徒会長をしており、学校に隣接する博多障がい者フレンドホームに挨拶を兼ねて運動会のチラシを置く許可をもらいに伺いました。その時に博多ボッチャクラブのスタッフの方から「いい体してるね！ボッチャしてみない？」と、声を掛けていただいたのがきっかけでした。

最初は不安もありましたが、いざクラブの練習に参加してみると、「あれ？意外とできるんじゃないか」と自信をもって、僕にできるスポーツだと感じボッチャを始めることになりました。始めたころはなかなか試合で勝てませんでした。最近では九州・山口レベルの大会でメダルが取れるようになりました。ライバル選手に勝つため、大会前に大分や山口に出稽古に行ったこともあります。ボッチャの魅力はなんといっても奥深さです。始めた頃は曖昧なルールしか知らなかったのですが、ルールを知るうちにこの競技の魅力に取りつかれました。

僕が取り組むアスリートボッチャは、レクリエーションボッチャとは異なり、戦術やボールの固さ、判断力、集中力はもちろん、一番大事で難しいことは詰め将棋に似ていますが、いかに相手の事を先読みするかがボッチャの最大の魅力です。



廣田 洩(ひろた けい)さん
博多ボッチャクラブ所属

普段はどのように過ごしていますか？

今年の3月に南福岡特別支援学校を卒業し、現在は、事業所の生活介護を利用しながらパソコンを使った仕事をしています。ボッチャの練習は、事業所から帰った後2時間程の自主練習を週1回、土曜日にクラブの合同練習に月2回、参加しています。また、ボッチャの他に演劇活動も行っていて、横浜、大阪等で行われた公演にも出演しました。この経験はボッチャにも役立っています。

これからの目標を教えてください。

ボッチャは僕の人生を大きく変化させたことの一つです。今後も僕のように障がいのある人たちがボッチャを通して、何か得られるものがあればいいなど強く思います。これからもっと練習を重ね、国内最高峰の日本ボッチャ選手権で上位進出を果たし、世界レベルの大会で強豪たちと戦ってみたいです。そしてパラリンピックに出場し、メダルを取ることが目標です。